Major G. m. b. H. 發行、Leipzig 1932 Juni)〔內田〕

●蒙古源流箋證

嘉興沈曾植箋證
錢唐張爾田校補

最近北平から蒙古源流箋證なる書物が出版された事を知つて直に手に入れて見た。原稿締切までに間がないので詳細に目を通す暇がない爲に簡單に紹介して置かうと思ふ。

この書の序文を見るに沈曾根氏の死後張爾田氏がこれに補註を加へ更に王國維氏の校訂本（王氏校訂本の事は集刊陳寅格氏の論文「蒙古源流の研究」中に見えたるも未だ閲讀の便なかりしもの今この書によりてこれをも併せ見る事を得るを喜ぶものである）を得てこれをも參照して居る樣である。

從來世に通行せる欽定蒙古源流が誤字脫漏甚しくして讀むに堪へない事は周知である（蒙文書社の譯註蒙古源流の刊行によつて幾分は補はれたるも）。さきに內藤博士が盛京文溯閣藏四庫全書本によつて校訂せられたる書物と欽定本のそれとを比較してその誤脫の餘りにも甚しいのに驚くのである。甚しきに到つては七八行の脫漏すらある程である。然るに此の度刊行されたる蒙古源流箋證は私の調べ得た限りに於ては內藤博士の校訂されたるものと殆んど一致して居る樣に思はれる。從つてこの書は略完全に近いものと思つて差支ないものと考へる。この書の出現によつて容易にかゝる完本に接する事が出來る樣になつたのは蒙古源流を讀むものにとつて大變な便宜と言はればならぬ。その上蒙古源流に註を附して刊行されたのは本書を以つて嚆矢とするであらう。

今試みに註の二三を見るに卷五に於いて問題の阿骨汗を明の記錄に見える阿台汗に阿魯克台を阿魯台に比定したる等は可ならんも（滿鮮地理歷史研究報告十二卷和田淸氏「元良哈三衛に關する研究」參照）額勒錐特穆爾に關して額勒錐卽明史之鬼力赤譯改郭勒齋者也などは如何であらうか。（同上參照）

一體漢譯の蒙古源流は蒙古語の原文から直接漢譯せるものに非ずして初め滿洲文に飜譯したるものを更に漢譯したるものなる事は蒙滿漢三體の文を比較すれば明である。而も漢譯は滿洲文を譯する事忠實であるが蒙文とは多少の出入がある（何れ詳細に發表の機會を有すると思ふから今省略する）。從つてこの蒙古源流箋證の註に於てこれ等蒙文の源流を參照したならばより以上啓發される所があつたであらうと思はれる。

要するにこの書は從來の欽定本の面目を一新したる點に於て又其の註を附せる點（註に關しては尙檢討を要するは勿論なれども）に於て苟も蒙古史研究者は一書を備へて然るべきものと信ずる。（京都棗文堂取次）〔山本〕

●福岡縣史資料　第一輯

福岡縣立圖書館長伊東尾四郎氏が縣の囑託を受けて蒐集編次せるもの。まづ卷頭に參考書目を擧げその主なるものに就いて解題して後、神代以後持統朝までの史料を編年體に揭げ、次で有名な宗像の一筆一切經、五條家文書等中世の史料を載せ、轉